［第 343 回朝食会（朝会）結果］

ウクライナ情勢など大変難しい情勢にあるなか、的確な分析で講演頂きました!

日本銀行横浜支店河西支店長をゲストに開催致しました

今年初めての開催となった「第 343 回朝食会(朝会)」は、３月 15 日(火)8 時 15 分より、日本銀行横浜支店 河西 慎氏(写真下)をゲストに「最近の金融経済情勢について」と題して、HOTEL THE KNOT YOKOHAMA において 42 名の出席で開催致しました。

加藤会長より「ご多忙のところ多数のご出席を賜りありがとうございます。今年、最初の朝会になります、引き続きよろしくお願い致します。

1、２月と開催できずにようやく３月に入り開催する事が出来まして本当にありがとうございます。また、日銀横浜支店長河西様には、開催期日の変更のお願いをしながらもご対応頂きありがとうございます。

今、私共が一番気にしております経済の動向など３月になり大きく変化してまいりまして、この先どうなるかも含めましてご講演を頂く機会をおつくり頂きありがとうございます。本日は経済局をはじめ多数の会員の皆様にご出席頂きありがとうございます」と挨拶され、初出席の方々の挨拶と紹介、連絡事項を報告し講演に入りました。講演の要点は、

■神奈川県の経済は感染拡大により、一部工場の閉鎖なども影響して、供給制約に伴う生産下押し圧力が根強く残っており、まん延防止等重点処置が延長された事で、個人消費の下押し圧力も引き続き強い状態が続いている。

■今の時点では、ウクライナ情勢の緊迫化が、神奈川県経済に影響を及ぼしてはいないが、先行き様々な形で景気下押し圧力として働く可能性があるので十分な注意が必要なこと。

■国内の生産は全国、神奈川県何れも９月に半導体不足の影響で落ち込んだ後、減産幅は徐々に縮小してきている状況。但し、回復の情況はかなり緩慢な状況に留まっていること。

■県内 2021 年度の経常利益は、全産業で対前年比 20.8%とはっきりとした増益となる見通しで、企業収益の改善が設備投資に繋がる好循環が続いていること。

■日本は物価も賃金も上がらないという事が定着しきっており、過去 30 年の平均賃金は殆ど変化せず、OECD 加盟 38 ヵ国の平均で 30%近く上がっている主要国はそれ以上に上がっているので、かなり際立った特徴であること。

■持続性という点では、物価上昇が息長く持続しうるものとなる為には、物価はある程度上昇するものだという物価観が人々の間に定着し、値上げを許容する感覚が高まることが必要。

■日本でも物価をめぐる環境は潮目の変化も見られ、円安を加速しているなかで、第一に、感染症による個人消費への下押し圧力、また、供給制約に伴う生産への下押し圧力が根強く残りつつも景気は基調として持ち直しを続けていると、今のところこうした判断をしている。
■第二に、但し、地政学的リスクと言うものが著しく高まっており、先行き様々な形で景気に対する下押し圧力として働く可能性があるので十分な注意が必要。
■第三に、先行きの景気回復に向けたメカニズムが維持されるかどうか、現在取り纏め中の短観調査の結果なども踏まえ丹念に点検していきたいと考えている。
■ポイントは、企業収益の改善が設備投資の増加へと繋がる、企業部門の前向きのメカニズムが引き続き期待できるかどうか、また、物価上昇に見合ったペースで雇用所得環境が改善して、消費の下支えが出来るかどうかにあること。
　等をお話し頂き、最後に、このところ、どうしてもコロナが長引く中で保守的、悲観的になり易い、そう振舞っている方がともすると居心地が良いようですか環境が続いていますが、だからこそ一人ひとりが強い意志を持って楽観的であろうとする事が重要と考えております。目先の景気はパっとしませんし、中地容器的課題も大きく横たわっている訳ですけれども、心を折られる事なく頑張ってまいりましょうと加えられ、質疑が行われましたが、コロナ感染に加えウクライナ問題と不確定要素が多い状況下、的確な分析で分かり易くお話頂き、今日の情勢を知るうえで正にタイムリーな朝食会となりました。